

『凜として愛』

一、
遙か神代から、受け継ぎし我が祖国
幾千年の時を越えて
やおよろずの神と英霊に護られ
八百万の神と英霊に護られ
日はまた昇る、明日の日本へ
いま、国難に、凜と立ち上がる
やまとの魂、胸に抱きつつ
大和の魂、胸に抱きつつ
可憐な花よ、撫子の花
けだか、清く、乙女の心
気高く、清く、乙女の心
教導えよう我が子等へ、『日本の誇り』を
繋ごう未来へ、輝く歴史を

【語句の解説】

神代……神々が統治していた神武天皇以前の時代。
祖国……自分の国。母国。
八百万の神……日本を守護する多くの神々。
英霊……国に尽くした人々の霊・魂。
国難……国の危機。国の災難。
凜と……心身が引き締まった状態。毅然(きぜん)と。

かしこ おおきみ
畏き 天皇と築きし我が祖国
いくせんねん とし
幾千年の歳を重ね
きせつ いろど
季節が彩る、美しい山河よ
それい ねむ
祖霊が眠る、愛しき故郷よ
いま たたか
今、戦いに、凜と立ち上がる
やまと たましい むね
大和の魂、胸に抱きつつ
さくら はな 益荒男の命
桜の花は、益荒男の命
ちゆ はな くに
散り逝く花も国の誉れぞ
つた わ
教導えよう我が子等へ、『日本の心』を
つな みらい
繋ごう未来へ、愛する日本を
あい にほん
愛する日本を

【語句の解説】

可憐な……可愛らしい。いじらしい。
撫子の花……淑(しと)やかで我慢強い日本女性を
たとえる上で使われる花。
畏き……恐れ多い。尊い。
おおきみ(大君)……天皇の別の呼び名。古称。
祖霊……先祖の霊。
益荒男……雄々しく勇ましい男。
誉れ……名誉。誇り。